京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵稅一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊(日刊)
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 松久神一郎
京城西署西小門通(電話六六三)
發行所 京城新報社

時間表 [illegible]

系路と藤田院長(一)

過般藤田總督府醫院長が平安南北道に於けるペスト豫防視察の際各地重なる官民間に講演せられたる内滿洲地方のペストは今後如何なる系路を採るべきやの一點は左の如く陳べられたり即ち其一節を抄録す

目下滿洲に於けるペストの状況は未だ開業者間の具體的報告に接せざるを以て今後の流行消長の形勢に就ては何人も容易に判定し能はざるべし目下觀察中の北里博士の報告を渇望し居れども其報に接せざるを以て從來のペスト流行經歴と目下の状況とを述べて參照に供せん

抑もペストは中世紀頃歐羅巴全土に蔓延して其流行十數年及び爾來十七世紀頃迄各處に流行消長して絶ゆることなかりしが市街家屋其他一般衛生上の改善に伴ひ總に其蹟を絶つに至れり其改良前の歐洲市街及び家屋の状態は之を記錄に呈するに殆んど目下**支那**の如く街衢狹隘汚穢物堆積齷齪狹小にして**光線の射入**に乏しき等極めて非衛生的のものなりし

降る千八百九十四年香港にかける大流行を來し爾來南清地方及び吾臺灣等は其流行消長わりて香港、上海等の如き市街及家屋の衛生状態改良せられたる處は殆んど其跡を絶ちたり

日本內地に於ては**三十二年**香港方面より來れる商船より神戸に輸入し爾來各地に出沒消長し延て明治四十年に及べり

ペスト流行と季節の關係如何を見るに本邦に於ては九、十月頃より始まり十二月頃極期に達し一、二月頃減退し三四月頃の春暖に至りて再び發生し七、八月頃**酷暑**に及んで**終息**するを常とせり『コッチリッヒ』氏の調査に仍れば埃及の流行は夏期に於ては腺ペストにして鼠族及人間に傳染蔓延し汎ねく全土に散發し冬期は呼吸に因りて人より人に傳染する肺ペストにして一家族に多數の患者を發生せりと

余が臺灣に於ける經驗も冬期より春期に流行し盛夏期に入りて全く消滅し主として腺ペストにして時に僅かの肺ペストを混じ居たり

元來本菌は寒氣に對する抵抗力極めて頑強にして人工培養したるものを零下三度の氷室に貯藏すれば數年間生存し零下三十度にて氷結するも尚生存するのみならず其勢力保存せりと秦博士は報告したり

反之**熱**に對する**抵抗力**は微弱にして六十度なれば一時間八十度なれば五分間にて死滅すべし

●公債と漢銀增資

漢城銀行增資に際し確實なる恩賜公債證書を同行株式に乘り換へたる人々及其株數は左の如し

氏名	株數	氏名	株數
李載完	七、三九二	李熹公	四、九六八
李堈公	四、九六八	李海昌	三、〇八〇
閔泳璘	二、七七六	李容植	二、四四〇
李完用	一、四四四	趙重應	一、五四四
朴齊純	一、三四四	閔泳徽	一、三三二
趙民熙	一、三三二	李秉武	一、三三二
李址鎔	一、三三二	李根澤	一、三三二
李埈鎔	一、三三二	任善準	九三二
閔丙奭	七七六	朴齊斌	六六六
韓昌洙	六六六	李載崑	六六六
李載克	六六六	高永喜	六六六
金春熙	六六六	李允用	六六六
朴泳孝	六六六	李琦鎔	六六六
閔炯植	四八四	金宗漢	三〇四
朴箕陽	三〇四	李海昌	三〇四
閔泳韶	三〇四	尹澤榮	一五二
安國善	二七二	閔泳綺	一五二
趙同熙	一五二	金永琉	一五二
尹德榮	一五二	李恒九	七二
韓相龍	六四	韓龍植	四八
趙聲九	六四	徐泳均	六四
姜容熙	六四	徐丙協	六四
李喬永	六四	計	四八、〇〇〇

●醫學講習所規則

朝鮮總督府醫院附屬醫學講習所規則は本日總督府令第十九號を以て發表せられ全文廿二ケ條より成り別に同講習所生徒學資給與規則をも發表せられたり今其の大要を掲ぐれば同講習所には醫科、助產婦科及看護婦科あり學年を分ち前學期(自四月至十月)後學期(自十月至三月)の二期とし看護婦科の修業年限は三學期に分ち而して醫科學生は朝鮮人たる男子、助產婦科及看護婦科生徒は朝鮮人たる女子にして各年齡十七歲以上二十五歲以下にして入學試驗を施行す試驗には學期試驗と卒業試驗なり醫科卒業者は醫學進士の稱號を用ゆる事を得る者なり

外事一束

▲獨逸● 政府は現議會に於て處理し得ざる重要案件を決定する爲め十一月の總撰擧以前に臨時議會を召集せんと。

▲愛蘭● 自治案愈々議に上り最も穩健に討論の進行を見しが遂に二百十二對三百二十六の多數を以て之を否決す。

▲撤回● 獨政府のアルサスロートリング州憲法實施法案は委員會に於て反對を受けたるより多分撤回されんとす。

▲米加● 併合の決議案米國下院に提出さる然るに該動議は眞面目視せられず

▲英國● 公使は支那に對し若し賊徒討伐の確證を得ば緬甸駐在軍隊を撤退せんと聲明す然るに支那は容易に不決

▲出兵● 露國は清國の曠日彌久主義を怒り其國境に軍隊を送る事あるべしとの通知を日英佛の關係强國に發せり。

▲夢想● 清國は利權回收を夢み吾租借地關東州旅順の回收を宣る爲め官民協其準備を要すと帝國に報之れを叫ぶ。

▲清國● 新內閣及弼德院官制成る弼德院は外交財政軍事等の重大事件を決議する機關又內閣に總理と協理を置く。

▲內亂● 墨國官軍はリーと稱する處にて叛徒を攻擊せんとせしに狡くも叛徒に牒知され通行の橋梁全部破壞さる。

◎新刊紹介

△綴日韓古蹟 著者契田館洋氏嚢に日韓古蹟の著あるや洛陽の紙價爲に大に騰がれりと傳ふ此著は則ち其續編にして前書の缺を補ひ且つ文祿役の遺蹟を叙するに到りては實に肉躍り骨鳴るの思わらしむ然れば前編を備へたるものは必ず更に本書を備へざるべからず而して同時に本續兩篇を合し發賣せり(京城發行所日韓書房定價八十錢合本一圓)

△日語講義錄 鄭雲復氏の著作にして京語を標準とし新附民に國語普及を目的とせる通信教授書なり(京城發行所日語研究會定價十三錢)

△新世界 改良第六號短くて面白き小雜誌(東京新世界社定價三錢五厘)

召使れ物(一一の六)

碧瑠璃園



「德兵衛、何かは知らぬが、左樣なことを致し與れては困るでないか」と佐五右衛門は眉をひそめ「た身から物を受ける筈は無い」

「ではござりませうか、私の志、これは平にれ納めを願ひまする」と德兵衛は口早に云ひ切つて「さて旦那樣、奧樣もれ立ち合ひ、折入つてれ願ひの次第ござりまするが、れ聞き入れ下さるでござりませうか喃」

「改つて何事ぢやの」

「餘の儀ではござりませぬ、れ屋敷には若旦那樣御在らせでござりまする喃」

「悴佐十郎、當年二十一歲に相成る然し多くは外出、宅に在るは極めて稀ぢや」

「するとれ孃樣は、何れかへ御縁組あらせられるでござりませう喃」

「悴の身持修らぬでの、遣に養子でも取らうかと存じ居る、然しこの體裁では參る人もあるまい、左右はまだ思案最中ぢや」

「町人の身を持ちまして、斯樣なこと願ひまするは、身の程知らぬ馬鹿者との御叱りもござりませうが、實の處、私に一人の悴ござりまする」

「それは承はり居る、幾歲ぢやの」

「當年二十三歲に相成りまする」と德兵衛は手にせる扇子をパチつかせ「親の口から斯樣に申すは、恐れ入つた次第ござりまするが、商賣にも出世、氣質も優れて正うござりまするゆゑ、諸方の仲間取引先から、誰彼と嫁の申し入れもござりまするが、下世話に申す帶には短く、襷には長しで、まだ取り極めた縁談もござりませぬ、御存じ呉服店、代々町人では居りまするがれ陰樣でれ屋敷方御贔負、唯今では石州濱田の御城主松平周防守樣御用聞きを勤め、御扶持も戴き罷りありまする口に巾る御願ひではござりまするが、れ孃樣を悴德右衛門の嫁に下さることと爲らぬでござりませうか喃」

彼は片手を疊につきて、片手に額の汗を拭ひぬ佐五右衛門はつくづく聞き

「娘を嫁に與れといふ、見る通りの不標緻、殊に浪々中とて何の旅も無い、斯樣な者進ぜた所で、大商人の家を縮ることは能きまい、切角ぢやが斷る」

「りの御口上、御有理樣でござりますす御浪人遊ばしてもれ武家樣、れ大名衆御用聞は勤めても町人、釣合ぬは不縁の基と、昔から申すことでござりますが、私は、御孃樣御心底の懷しさに打ち込み町人の身、御縁組協はずば、假へ身代投げ出しても、御家人衆株を買ひ取り、兩刀帶する身となつてこの御縁調へたい望みでござりまする、御標緻はれ庭の櫻やら、それも及びござりませぬ浪の映る朝日の光り、それにも勝りて潤しいれ心掛けぞ、私はぞッこん惚れただでござりまする、實の處この紙包み、私心では結納のつもりで持參た、まず御披見遺はしませ」

れ力は異みながら紙包みを開き見る裡より出でしは思ひ掛けずれ金の所持せし奔なりき、前刻に三河屋へ持ち行きて酒と替われたる紀念の笄なりき、れ力は餘りの不思議さに顏の色を變へて

「この品、どうしてれ手に入つたのでござりまするな」

「私強てもれ孃樣を御所望申し上げる仔細はこのれ品にれ聞き下さりませ、不禮れ願ひれ氣に障つて、れ手討ことござりましても、れ孃樣のれ爲めと思へば恨みませぬ、是非れ聞き屆み下さりませ」と德兵衛は思ひ込んだる聲なりき。



●恩賜と慈善協會 (東京電報 廿一日) 中央慈善協會にては今回陛下に於かせられ我國經濟状態に伴ひ人心の動搖あらん事を憂慮し給ひ内帑より恩賜金を下し給ひ深き御思召しに對し同會は之が分配方法に就き熟議せんが爲め昨夜銀行集會所に於て幹部會を開き澁澤男、金子等集會し澁澤氏は諮問及び救貧事業、防貧、教貧、救療、貧兒教育、勞働紹介所等各般の細民救濟の具體的の方法に關し今何事を先にすべきかを調査したるに何れも緊急なるを以て決定に至らず何れ又幹部會を開き協議する事に決し一同食卓を共にして散會したり

●寺内總督の説明 寺内總督は病氣全快後昨日の議場に出席し朝鮮事業公債の内二千萬圓は京元、湖南及び京義線の改修工事に一千萬圓は釜山仁川鎭南浦の港灣改修費に充當すべしと説明したり

●美術協會御覽 山階宮武彦王並に常宮殿下には昨十九日上野公園日本美術協會に成らせられ新古作品を御台覽あらせられたり

●教員增俸問題 久しく輿論となり居たる小學教員增俸の件は昨日貴族院豫算委員會にて桂首相より追加豫算を提出して希望に添ふべしと言明したり

●民黨代議士會 民黨にては政府彈劾案は藏本派の手にて起草中なりしが愈々脱稿せしを以て國民黨は犬養氏の意見を徴して右に決し十八日議會に於て決議案を提出する事となり藤本、佐々木、服部、久保田、村松等の諸氏は議會の決議に從ひ行動する事に決したり

日野、藤原兩氏の勸告により脱會を思ひ止まりたり

●鳩澤氏脱會理由 政友會代議士鳩澤明氏が脱會を決したる理由は十七日の代議士會に於て鳩山氏と共に緊急勅令に關する違憲問題の態度に慊たらざる所ありたるものにて元來鳩山氏は幹部の意見に反對し居りしが小川平吉、長野の諸氏も亦脱會を勸告したるも一先づ脱會する事となれりと

●法相と同盟會 法學生試驗制度改正同盟會委員は昨日高田の私邸に訪問して法學生試驗制度の缺點を指摘し具に意見を述べたり

●伊黎問題の通牒 露國政府は伊黎條約問題に關し六ケ條の通牒を清國政府に發したるが清國は今之を承認せんとの内意あるも未だ決せず

●大規模の血精製造 大規模の牛疫血精製造所は今回釜山附近に設置する可く其經費は豫算に計上せられたり

●朝鮮問題と議會 二十日兒玉書記局長より朝鮮交通政策並に城津被害民救濟問題等の經過に關し電文左の如し

貴族院豫算委員會に於て寺内總督は交通運輸關係に付大體の方針を說明し秘密會議に附せられたり次回に於て朝鮮貨幣整理委員會に出席說明の上原案の通り可決、衆議院委員會に於て日露戰役の城津被害民救濟に關する請願は審議の末不採擇に決し朝鮮人の訴訟代理人をして訴訟を行はしむるの件は延期となれり又貴族院豫算委員會に於て總督の說明に對し木村伊三郎氏より二三の質問起り引續き審議せり

●總監の午餐會 山縣政務總監は二十五日正午北里醫學博士を主賓とし在京の高官を招き午餐會を催す由

●定例長官會議 二十一日より定例長官會議を開き倉富、木内、宇佐美、俵、小城、鈴木の各長官出席

岡本、小松、藤田軍醫監等列席防疫事務其他政務に關して打合する處ありたり

●救濟貸下金延期 去る三十九、四十年の經濟界恐慌は今日之を回想するも尚ほ慄然たらざるを得ざる程の慘狀を極め各商賈の倒產相踵いで起り殆んど底止する處を知らざる有樣なりしより時の韓國政府は臨機救濟の手段として各普通銀行に對し無利子を以て融通資金の貸下を爲したり其額は漢城銀行十万圓、天一銀行十八萬九千圓、漢城倉庫株式會社二十八万六千圓、漢湖農工銀行三十四萬九千二百圓、慶尚農工銀行二十一萬圓、平安農工銀行三十一萬四千五百圓、全州農工銀行三萬七百六十圓、光州農工銀行七万圓、咸鏡農工銀行十六萬廿二圓、平壤手形組合三萬二千圓にして五箇年据置き十箇年賦を以て還納せしむる命令の下に今日に及べり而して据置期限は漢城銀行は來る五月其他は九月を以て滿了すべきが其後各銀行の營業狀態を見るに稍々回復の曙光を認むるに到りたるも尚ほ甚だ困難の域に在りて到底年賦還納に苦むもの比々皆然らざるなし然れば元來恩惠的貸下を意味する該資金の事とて總督府に於ても多少此間に參酌を與ゆるの要ありとの內意ある由なれば多分右据置期限の延期を見るならんと云ふ

●醫學研究會演題 二十二日朝鮮總督府醫院內に開催する醫學研究會演題並出演者は左の如し

一梅毒神經疾患に於ける六〇六號の小實驗 森安連吉
一蜂窠織炎に對する鬱血療法 室谷條太郎
一惡性脉絡膜上皮腫に就て及其一例 藤井虎彥
一六〇六號の治驗 荒井元
一黑毛舌一例 河野衛
一聽力檢査の價値附朝鮮語を使用する成績 日比野弘
一解腹術後の腸管麻痺に對する「エセリン」の效用に就て 賀來倉太

●京城府と坊制度 京城府は從來其下級機關に於て缺如たるもの多く例へば各地方に在ては面長職制の如きものありて法令の周知若くは收稅上の仲介機關となり上意下達の爲めに尠からぬ便益を認められしも獨り京城府には此制度なく總べて直轄の下に萬般の行政事務を處理し居たり之が爲めに收稅事務の如き常に行違を生じ其成績拙劣等の觀を極め總督政治開始後に到るも寸前暗黑の狀態に在りたりしが漸く最近に到りて一切の整理を了へ始めて完全に近き臺帳の作成を見たる位なりと而して之を從來の經驗に顧みるも直接行政は往々支吾扞格の弊あるを免かれざるを以て現在四十有餘の坊區域を認め坊職制を施行して面長と同樣下級行政の補助機關たらしむべく內定し近々總督の裁可を乞ふ筈なりと

●交附漏れ恩賜公債 恩賜公債證券交附漏れの分はなほ京畿道廳に八百餘名もある趣きなるが右に對しては目下交附手續準備中なれば結了次第來廿四五日頃より交附に着手すべしと

●鑛業所大擴張計劃 平壤鑛業所に於ける第一期事業費として十五萬圓を投じたるが其の成績良好なるより第二期計劃即ち四十三年度に於て五十九萬圓を增資し增資金七十萬圓を以て事業經營中なりしが四十四年度より更らに同所大擴張の方針にて目下其の筋にて計劃中なりと云ふ

●北里博士の消息 二十日夜出迎の爲め出張中なる高橋軍醫正よりの電報によれば同日午後九時過奉天着今二十一日北里博士の一行は長春に向ふ筈

韓銀株の眞相 (二)

▲韓銀第二回拂込 が事業擴張の必要より來りたるに非ずして實は從來借金を以て間に合せ居りたる仕拂準備に充てんが爲なることは前號に記したるが如し茲に於てか知る同行今回の拂込は韓銀條例に因る補給年限乃ち今後四ケ年間拂込に對する六朱の配當保證を有するの外何等特殊の利益あるに非ず尤も永き將來に於て韓銀券の發行高が今日の倍となり若しくは三倍となりたらんには幷は格別なれども斯の如きは極めて遠き將來の事に屬し苟くも算盤を手にするものゝ識に上すべきことに非ず而るに茲に不思議なるは韓銀の實狀が前記の始末なるに拘はらず同行株の市價が從來拂込の三倍以上を稱し亦日韓併合の間際に於ては四倍以上を稱したる事之なり然れども斯の如きは不思議と云へば不思議と云へ其茲に到らしめたるに就ては種々の源因あり而して其源因中の重なるものを擧ぐれば第一が日韓併合より生ずる內地半島間の經濟の共通而して之が共通の手段として韓銀が

▲日本銀行 に合併せられん事之なり、第二は韓銀にしてヨシ依然たる韓銀として存在するも併合の結果は半島に諸般の生產事業急遽に勃興し從つて韓銀券の發行高が暫く間に三倍若しくは四倍に增加すべしと想像したることと是なり然れども日銀への合併は成らず併合後の半島は生產事業抄々敷起らず爲めに銀行券の發行高も思ふ樣に增さず事茲に到つて併合間際に於て一時百圓以上を唱へられたる韓銀株が本年に入りて八十圓臺に下り七十圓臺に落ち遂に昨今に到つて銀行者の擔保價格乃ち六十圓臺を至當なる相場と思はしむるに至りたるは素より其所なりとす、過去に於ける韓銀株の高値は實價と空望とを併算したるものなり今左に實價と空望とを明かにすべし

▲韓銀株の申込 は世人も知る如く三百三倍に達したりしされば申込株に對し割當てられたるは三百三株に對し實に一株なり此一株を得んが爲めに株主が拂出したる金額は四分の一拂込廿五圓外三百三倍の證據金乃ち(千五百十五圓を)百日間十五萬千五百圓の日步之なり朝鮮の日步は例外ぞしに茲には內地普通の日步乃ち二錢を以て勘定すれば各株主が一株を得んが爲に拂出したる日步は實に三十圓三十錢なり乃ち知る此三十圓三十錢と第一回の拂込二十五圓とを合せたる五十五圓三十錢が韓銀株一箇の原價にして之に六朱配當の保證を加へたるものが實際價格となる譯であり斯く明瞭に採算せば同株の擔保價格が六十圓なりとて驚くに及ばず亦本紙が同株現在の市價を六十圓臺なりと報じたりとて決して驚くに及ばざるなり而るに茲に怪しむべきは前記憶なき理由事ろ韓銀株主にとつて不利益なる理由に因つて必要を生じたる第二回の拂込が內地に向かつて

▲新株發行 を伴ふべき韓銀の增資なりと或者に因つて誤傳せられ而して其誤傳が一時勢力を得たるが爲め韓銀株は新株發行の空人氣を脊負ひ其望みの多き故を以て遽かに呼値の暴騰を見るに到れり然れども素と誤傳の材料より來りたる呼値の暴騰なるに加へて望みとして現はれたる者は大株主等の吊上策に出たる廻し者なり況や時は株主定時總會前乃ち

▲株式名義書換 の中止期に屬すされば此間何條以て多數株式の賣買やわるべき一犬虛を吠へて萬犬實を傳ふ一部人士の韓銀株に對する樂觀實に氣の毒に値す

●吉原副總裁歸任 上京中なりし吉原東拓副總裁は一兩日の內歸任の筈

●教育會の隈本氏送宴 總督府學務課長隈本繁吉氏は今回臺灣總督府へ轉任せしが氏は現に朝鮮教育會副會長として公私共に朝鮮の學界に貢獻多く旁々當地教育關係者は二十四日午後六時より京城ホテルに鄭重なる送別會を開き更に紀念品を送る筈なり

●總長邸の送別會 明石總長は谷川、橋本兩警長轉任に就き二十一日午後六時より自邸に於て憲兵司令部、警務總監部の各高等官並に各警察署長を招待して送別會を催さるゝ筈

●尹澤榮侯の貴族招待 尹澤榮侯は廿一日正午より李完用伯、高永喜子等在京の重なる華族一同を水門洞の邸に招き母堂の回甲祝をなす

●太田大尉の消息 過般來南鮮地方防疫事務視察の爲め出張中なりし憲兵司令部附太田大尉は目下羅南に在り視察中なりと

●谷川警視赴任期 今回鎭南浦警察署長を命ぜられたる警視谷川金一郎氏は來る二十六日午前南大門驛發赴任す

●岐阜縣人會 來る二十六日午後六時より京城ホテルに於て新任桑原秘書官の歡迎を兼ね岐阜縣人會を開催の筈

●大阪每日特派員 楢崎桂園氏の後任として今回大阪每日新聞當地特派員となりたる豐田哲輔氏は二十日着京

●敍任及辭令

四級俸下賜 朝鮮總督府技師 鈴木阪毅
內務部地方局土木課勤務を命す
四級俸下賜 朝鮮總督府道慈惠醫院醫員 福永豐綱
七級俸下賜
咸鏡北道慈惠醫院醫員を命す
朝鮮總督府警視 黑石憲治
警務總監部保安課兼務を命す
朝鮮總督府警視 時枝善政
警務總監部衛生課勤務を命す
朝鮮總督府警視 野中政市
警務總監部庶務課勤務を命す

●京城民會附議案 廿三日午後一時より開催すべき京城新民會第二回の議事に附する議案は第一號より第六號迄にして即ち稅則改正規則、徵收規則、手數料規則、基本金管理規則、社宅規則外一二件なり

●汚物掃除稅廢止說 四十四年度の京城民團豫算案は目下編成中なることは數次記載したるが聞く所に依れば理事者側の意見としては四十四年度に於て新稅を起さゞるのみならず家屋稅(龍山の現制)及び汚物稅は之を廢止する由にて此により減せらるゝ三萬五千餘圓は居留民の增加に依りて得る戶別稅、營業稅に依りて補塡する筈なりと云ふ

●仁川電鐵線路 仁川電氣會社にては去る四十年貨物搬送に電氣鐵道の必要を感じ當時總會決議の上其の願書を仁川理事廳に提出したるも爾來不況の爲め懸案となり居たるが今回同社にて十五萬圓の社債を起し該事業に着手する事になり目下社債の利率に付き交涉中なりと云ふが仁川市街電鐵に就ては目下重役の許にて設計中なるが大體の線路は仁川停車場より海岸に出で日本公園下迄でと仁川停車場より海岸通り本町四丁目京城通りに出で自然拐繩停車場と連絡せんの二線の計畫ありて何れを取るか研究中且つ海岸には倉庫棧橋等に引込線を設け海陸の連絡に便ならしむると云ふ因に群山電燈も經營する由

●紀念日の祝賀會 來月十日の陸軍紀念日祝賀に就ては當民團より京城府民會へ交涉する所ありしは當時の紙上に報道せしが其後同意の回答ありたる趣きにて目下民團に於ては當日の祝賀方法に付き協議中のところ未だ一定せざれど多分晝間は日鮮合同の祝賀宴會を開き夜間は同じく合同の提灯行列を催す事となるべし

●仁川商議役員會 仁川商業會議所にては同集金八履入の件外二三件を議する爲め廿一日午後一時より同樓上に於て役員會を開催せりと云ふ

●大邱の製紙計畫 大邱西門外鄭繼見なるもの五萬圓の資本にて同地に製紙所計畫中なるが同人一手に二万圓を引受け殘三萬圓の共同出資者を求めつゝあり同人の一子は目下東京府下王子製紙會社見習中にて本年卒業する筈なれば歸國次第同人を技師とし經營せんとの事にて計畫中なりと

●檜垣長官と語る 京畿道長官檜垣直右氏を其公室に訪ふ諄々として語らく總督政治が開始されまして尚だ日淺き事とて治績といふ程の事があろふ筈はない御承知の如く地方行政も端緒が漸く開かれました位で是から一年も經つたら何ふか斯ふか一段落が着くでせふ元來舊政府時代にも觀察使とか郡守とかいふものがあつて牧民官の形を備へて居つたもの〻彼の如ふな有樣であつたから有つても無いと同じ事然れば總督政治が開かれましても之を引繼いだといふより寧ろ新に創立するといふ譯だから耐つたものじやありません夫れで折角切々と勉強して事務の進行を計つて居りますが中々追ひ付かない能く稼ぐに追ひ付く貧乏なしと言ひますが吾々のは幾干稼いでも貧乏に追ひ付かれて困ります夫れで吾が管下の人民の歸嚮如何を見まするに孰れも陛下の御仁政の難有に感激して到る處太平を謳歌して居りますが故に吾々母國民は相一致して懇ろに彼等新附民を導き倍々仁政の恩澤に浴せしむる樣致したいものです而ふして口ではかり母國民を誇らず實行的に新附民の模範となり大に生業に勤勉精勵すべき所以をれ互に鼓舞しなければなりません云々

公人私人

△高山龜慶(仁川實業學校學監) 廿日入京不知火
△深田千太郎(農商工部囑託) 廿日平壤へ
△喜多藤吉(砲兵少佐) 同上釜山へ
△新庄清一(大坂商船仁川支店長) 同上仁川へ
△北尾榮太郎(北鮮新聞社長) 同上釜山へ
△佐藤孝三郎(群馬縣事務官) 仁川に向ふ

相場電報 (明治町西村支店着電)

▲大阪株式(二月限)

	(前場)	(後場)
神戶電燈	三八、〇〇	[illegible]
京坂電鐵	三九、〇〇	[illegible]
電燈同	六五、〇〇	[illegible]
大阪紡績	六五、〇〇	[illegible]
大坂電燈	六九、〇〇	[illegible]
東京電燈	六八、〇〇	[illegible]
東株新	〇九、〇〇	[illegible]
大坂株式	〇九、〇〇	[illegible]
株式	一六、〇〇	[illegible]
同直	一二一、〇〇	[illegible]
同取引	一三〇、〇〇	[illegible]

▲大阪期米

●廿日前場二月止二十錢▲四月止三十錢 十五圓八錢▲止九錢▲四月寄二十錢 止二十一錢▲四月寄 七錢
●廿一日前場二月寄二十三錢▲四月寄三十八錢

▲治外法權▼

昨紙本欄に於ける記者の南北朝正閏論は自慢ヂヤないが間違はない積り、而し此正閏問題を以て任ずる人々が怪しからぬ事だ▲然し度意見を成べく不穩にならぬ樣にするが本正閏論は問題だ中世紀的の議論を飛行機の時代に試むるなどはアマリ智慧の無い話だ前代識士の樣な男が今日の日本に一人でもあると云ふ事は寧ろ不思議だ▲水戶の義公が湊川へ嗚呼忠臣楠氏の墓と云ふ墓碑を建てたのは勤王の世論を喚起する爲めだ、絕世家たる義公の起、アノ時代に於て逵九郎等の爲せし事た▲討死以來幾百年正成が義公に依つて紹介者が紹介者で史上勤王家の隨一正成を世に紹介した原で尊氏の木像を或寓意のあつた事論致敵に對する示威幾り星移り今は斯くなつて夷狄と稱せ盟を有するようになつた明の世に南北朝正閏題になつたなどは今や我帝國は十億債務國だ、債務國世紀的正閏論に事だ。

●仁川米豆取引 ●廿日後場 二月寄十一圓 ▲三月寄十一圓 ▲四月寄 ▲最高 ▲最低 ▲止九十二錢
●京釜鐵道貨客 發送 四八噸 到着 四二八噸 貨物賃金 一〇一九、六四 二十日の分 乘車客 一五三 下車客 六九三 乘車賃金 一六六、七九 貨物賃金 一七八、一五
▲仁川港の出入船舶▼ 大有丸



活動寫眞　雨團子

二十日朝の南大門驛

朝光淡隅に映じて寒靄を解く、山頂の尖塔、寺院の殿舘、煙ゝ近く四邊に徹して、走馬燈の浮世は、茲に現出して、血と汗との競爭は、支那人となく、鮮人となく、內地人となく、忌憚なく各自の脚下に迫る、人はパンのみを以て生くべからずと雖ども、亦パンなくして一日も在んずべからざるを奈何せん、現代に超越して靜かに下界を俯瞰せば有象無象の蠢動夫れ如何に快ならんと、歩むともなく停車場に入る、

手荷物扱所には、既に數多き行李が積まれて漢城を去るの人は待合室に充つ

朝鮮總督府專賣局技師、

荒井寅治

氏も此一人として數多き行李什器がベンチに重なりて其出發を見送るべき人々は構內狹しと入り來つた、

浦尾旅舘の平森とか**山本旅舘**の藤田とか、種々のトランクは其傍邊に散在する、

午前九時、數多の見送人は一齊に一揖して荒井氏の姿は、釜山行の列車に入りて靜かに驛を放れて、同九後十分の新義州行列車の出發に移つた、

遙かに蜿々たる郊外の山岳を望めば、殘雪點々として銀蛇の蟠居するが如く一二の老松、晴光に榮へて、九十の春光、正に近づく。

化物屋敷探險(下)

龍山

十七日夜十一時より

「掃除も出來た、炬燵も入りました」と市川君が呼ぶ、查公三名に僕を加へて南雲君の携へ來れるドヤ〳〵と入る、提灯振り照して家內を一巡檢閱した、即ち入口は半坪の漆喰、障子を開けば其所が二疊に一間の戸棚がある、右手の襖を開けば六疊に一間の押入れ、其の次の襖を押せば即ち十疊を敷くべく障子を開けば椽、左へ迂回して厠便所椽は鍵形に架げられてある、されば其の方は障子と戸とによりて外界と隔てられてることは勿論だ、六疊と二疊とには疊が敷き詰められて居る、僕等は其の**六疊**の方に市川君を煩はした**炬燵を中心**にして六人**瑞寶章形**に相對す、十二時過ぎだ寢ようと股を曲げる南雲君が毛布を一枚僕に分與して與れる例の木刀は抱いた儘である、查公連の方は橫になると直ぐグウ〳〵と眠つた、如であるのだ、僕何時の間にか眠に落ちたト抱いて居る**木刀**を**ソロソロと引っ張る**ものがある、ギヨットはしたが左手に木刀を押へて右手を伸して密に四邊を探つた、ト突然**僕の手を握つた**者がある、確かに人の手だと安心すると其の手は僕の掌を探る、其の人は**查公**であつた、之れは京城新報記者と名乘つた僕を神聖舘の門弟で南雲君の手足だらう新聞記者とは僞りであらうと疑つて手に**タコの有無**を檢したのだと頓悟した化物屋敷の眞夜中に此の豫期せざる試驗に遭つて狼狽せず旅々平たりし僕が平民の子と云ふのだから勿体ならう、**エッヘン**、再び眠に落ちた、頭の先きの二疊へ通ふ**襖がスル〳〵**と走つた、晉に眼が覺める南雲君だ、便を催したと云ふ、提灯を提げて居る、何時だと問ふ、二時だと云ふ、モー徐々出る時刻ですと附け加へる、而して過去二晩の化け案配を話す、石を投げる砂を浴せる、かと思ふとゲラ〳〵笑ふ咽喉を縮めると云ふのだ、三度眠に落ちた、フト眼が覺める、市川君を除いて悉く起きて居る塞い〳〵と云ふ、其の內查公の一人が耳を峙て〻居る如であつたが何か來たと云ふ「**エッ**」と一齊に耳を澄ます、成程泣くが如く怨ふるが如き聲が聞へる、本物に成つて來た哩と私に思ふと、其の聲は消へてサラ〳〵と風の行く音か聞へる、三時半**パタリ〳〵**何かの…足音の如なが遠く近く聞へる、夫れも止んだかと思ふとヨボーと耳に近く呼ぶ、**ゾッ**とする、下の往來の方に當つて人の驅ける氣配がある、四時、五時、五時半、何事もない要するに當夜は何事もなかつたが不思議な事はある、夫れは夜にして犬の聲を聞かず、夜より曉かけて一聲の鷄の聲を聞かなかつた事だ、三戸の邑にも曉に鷄の聲は聞く、夜は月の影風の音に吠ゆる犬の聲はある、然るに此所には夫れを聞かなかつた、附近の家屋**七分通り**は**空屋**である化物の名に累されて、龍山の爲め實態を究めて欲しい、山猫も川獺も居なければ居ない、化物が出なければ出ないで化物退治されたのだ精神的に、即ち噂に過ぎなかつたとか極まつて了へば化物は退治されたのだ、居れば物質的に退治して貰いたい、五時四十五分查公と僕とは先へ御免蒙る南雲君僕を戸外に送り出して曰く「何の**れアイツ**も**無く**て」と僕曰く「れアイツがあられては堪らない」と夜は明け放れたるも月は猶は皎々の光を投げて居る、化物だつて**初會の客**には**出ない**こともあらう、又來て見よう、と思ひながら歸つた(ひの字)

●**各署の鼠買上數** 十九日各署捕鼠買上數西大門分署三〇二東大門分署三〇二南部署二五六水門洞分署三〇六龍山警察署二五五北部署一九三銅峴分署一三四龍山憲兵分隊三一

●仁川捕鼠買上 二十日百六十二頭にして金四圓八十六錢なり

●**自轉車乘の不注意** 仁川本町四丁目河野竹之助雇人橋本柳助(二五)は一昨廿日午後三時四十分頃自轉車にて用務の歸途同三丁目〇萬前に差懸りし處恰も附近の小供幾多遊び居る中仲町二丁目三番地万田德太郎長女吉夫(〻)に突當り面部及左眼肩左手等に打撲傷を負はせしより折から巡回中の警官に助けられ早速佐藤病院にて應急手當をなしたりと因に柳助の乘り居たる自轉車には警鈴及輪止め等の備なかりしとは不注意千萬と云ふべし

●百福號の雛人形賣出し 本町四丁目百福號にては東京雛及期節向小間物の新荷到着せしにより廿日より賣出しを開始せしに高尚美麗にして且價格の低廉なる故非常の賣れ行きなりと

●竊盜 龍山元町三丁目菓子商眞木忠一方に二十一日午前五時頃一名の賊裏口より忍び込み店頭の錢箱四圓餘在中一個を竊取逃走せんとする物音を忠一が聞き付け追跡し四丁目ガード下にて追ひ付き取組合を始めたるを折能く島田巡查驅け付け逮捕し本署に引致取調べたるに和歌山縣日高郡早蘇村字中川入口松藏(二七)なるものにて一昨年眞木方に菓子職工として雇われ居りしが其後京城にて橫領罪を犯し永登浦監獄を數日前放免せられたるもの目下留置取調中なり

●博徒 福岡縣鞍手郡木尾野瀨町四九番地當時住所不定力丸傳吉(三二)は一月三十一日午後五時頃より旭町三丁目二十七番戸吉田作七方に於て外二名の博徒と共に博奕を爲し南部署より檢擧の際逃走せしが遂に逮れ同署に於て懲役一ヶ月の即決言渡さる

●阿片 南部仁觀房住林順元(二〇)は阿片を吸食し身体弱り生活に困難を生じ惡心を起し一月二日午後七時頃明治町一丁目春野國造方にて靴一足を竊取せしを初め外數ヶ所に於て靴衣類等を竊取南部署に逮れ檢事局に送らる

●懲役 德島縣海部郡鞆浦村二百九十五番地當時住所不定天野豐藏(二〇)は二月七日午前一時頃北米倉町飲食店幾代に登樓し三圓五十錢の遊興費支拂出來ず南部署に引致され詐欺取財犯として京城地方裁判所に於て懲役三ヶ月に處せらる

●甚助 伊藤組車夫長崎縣人森熊次郎(三〇)同車夫山口縣人立石梅吉(二五)同車夫三重縣人伊藤喜助(二三)の三名は一昨二十日午後十一時過ぎ明治町二丁目三桝屋に至り素見したるに酌婦等が取り合ぬとて暴行を働き南部署に引致され取調中

●文無 大分縣北海部郡大太村當時明治町三丁目八十二番戸大工職山本彥太郎(三一)は十九日午後六時より長谷川町二丁目いろは樓に登樓し藝妓酌婦を敵手に大盡氣取りに遊興の揚句五圓九十錢の計算を突き付けられ懷中無一文にて南部署に訴へられ目下取調中

●病人 愛知縣海東郡美和村北苅三十番地生れ溝口鯉之助(一九)は銅峴分署管內に於て勞働に從事中病氣に罹り治療の資力なきより行路病者として民團に引渡したりと

●行倒 蓬萊町一丁目街路に乞食体の鮮人變死し居るを發見南部署より檢視の上京城府廳に引渡したりと

●拾得 仁川濱町二丁目曾根清次郎の長女ウメ(八つ)は廿日宮町三丁目に於て赤毛付小供の肩掛を拾ひ屆出づ

●演藝だより

●壽座 休演中なりし同座は今回新派正劇乘込一二十二日より花々敷開演の由にて初日の藝題は黑法師作「松山嵐」全十二場にして重なる配役は松山時之郎(出男)同妻久子(藤紫水)同下僕多作(北村秀夫)同召使花(寶井亘)教員金輪(花島桂舟)同妻安(淺井節夫)同召使時、女學生山邊(東新之助)同倚浦(花田香)木挽與助(上田四郎)同助十(秋葉三郎)職工長五十松(青山太郎)下代太郎(村山春夫)職工作十(井上一郎)同金太(一二三正一)校長谷川(光城龍馬)

●歌舞伎座 大人氣なる男女合併劇廿二日の替り狂言は前「長良長者 笠塚」七幕切「忠臣講釋」二度目の一幕にして配役は淀屋與惣衛門、寺岡平右衛門(正三郎)娘梅ヶ枝、源四郎、輔司下女粧代、佐々木なぎさ、れ石(濟吉)女房たまき(尾の吉)大忍坊源吾(雀十郎)番頭忠兵衛、近藤孫三郎 花笑 佐々木源之助女房きた(錦二郎)

●京城座 引續き好評を博し居る兄弟劇廿二日の藝題は探偵小說「短銃」全十三段返しを大車輪にて演ずる由にて重なる配役は左の如し

山下警察署長(岩村)三浦巡查(花房)短銃れ定(堀江)刑事長田中進(吉井)雲霧仁三郎(谷)岡本新三郎(塚本)同安之進、按摩德市(松澤)〜稚岩吉(一藤澤)齋藤刑事(小泉)伊東吉兵衛家主甚兵衛(江見)

●桂文治歿す 故圓朝等と落語界に名を比しうせし桂文治は中風症にて藝壇を退き永らく淺草區新福富町廿一番地の宅に療養中なりしが遂に十七日午後十一時六十六歲を一期として死去せり

●綾瀨太夫逝く 前電に危篤を報じたる東都の綾瀨太夫と三輪平太(大さ)は遂に藥石効なく十八日午前九時二十分京橋區松屋町三四の自宅にて死亡したり

仁川商店めぐり

支那町　八田石炭店

店主八田利三郎氏は香川縣の人明治二十九年の渡鮮者にて仁川に於ける石炭商の嚆矢にして爾來今日に至りし者にて其の名最も廣し嘗ては仁川港に寄港せし各國の軍艦及汽船等は一手にて供給し又我が駐劄軍の用達たる等にて氏の商才に敏なる又以て人となりを致せし所以なり目下は龍山に支店を置き京龍仁間の各官衙諸工場等への供給重なるものにして一ヶ年の扱高一萬二千噸餘なりと石炭の種類は若松炭を主とし唐津炭筑豐炭等にて時價一噸金八圓五十錢より九圓なりと因に氏は克く公共心に富み民團及會議所議員として仁川港の爲め盡瘁せし功勞不尠益々市民に信頼せられつゝあるは言を俟たず

●取消 拜啓陳者去る二月十九日發行京城新報第六三〇號雜報面に共同組の紊亂なる題下に店員松村太郎西田九三郎稲田惠成數百圓の金員費消目下其筋にて取調中云々ノ記事之有候へ共右は一時嫌疑を蒙り尋問相受候迄にて事實判明致候次第にて記事相違に有之候間本文御掲載の上該記事全文御取消被下度此段御願申上候也 明治四十四年二月廿日 協同組京城支店 京城新報社御中

京城の眞夜中(四)

みや生

黃金町の大通へ出だ、左角の派出所で**鮮巡查**は休憩中の鮮巡查が例のサ、バ、リを前に控へて食事の眞際中、勤務にある最一人は柱に身を寄せて卷煙を吹して居る、勤務中なのに不都合だとも思つたが局外者の我々が兎や角く云ふ筋ちやないと尻目にかけ通り過ぎたこの邊を眞直に電車通へ出ると右角の見張所に一勤務中の一人がスパ〳〵やつて居る、私の姿が眼についたか、先生聊かたどろいたらしい、火の付いたまゝの莨をポケツの中へ押込んですました顏、可笑さをこらへて脇へ寄ると不動の姿勢で恐る〳〵予の顏を見つめる、可笑しくもあれば氣の毒でもあり予は思はず笑顏をつくると、やつと安心したらしい、右足を前へスット出して聊か反身になる、ヨボシユウ火を供して下さいと莨を取り出すと、左のポケツから**南京マッチ**を一**本**摘み出して派出所の柱でシューとすつて付ける、と云ふ、御丁寧恐入るは心の中、いゝ、コウマプソと只一言いふふと立去つた、

此處は**羽衣町**で總督府代用官舍として街壁がある、其橫手から草履ばきでパ、ハ、パ、タ、パタと出て來た兩人の女、若い方が、「エ、ありやね、元龍山の何藤とか云ふ料理やで酌婦を爲て居たんですよ現今でこそあの人の家で眞面目臭つて居ます………ソリやもう………」なぞと甚しく攻擊する、「ヘエ、左樣ですか、始めて聞いた、人つて見掛けによらないもんですね、」と、さも驚いた顏付で何も語りつゝ歩を西へ進めた、話しの樣子で察すると彼の龍山で酌婦を爲て居たと言ふ女は今は何れかに下女奉公をして居るらしい、併し彼等が言ふ如く淫賣をして居たのを事實とした所で現在昨の非を悟つて實直に勤めて居れば夫れで結構、一旦の心得違ひから不都合な事をしたにしろ悔悟すれば眞人間である、其の樣な洗ひ立てを爲しても折角眞の道へ入つたものを又しても邪路に迎ひ込むことになる、社會は然うまでして罰を責めるには及ばぬのである、斯樣な詮索が何んになる彼の兩人は玉井方面へ去つた。

さて此れからと目的地へ實驅するのであると人しれぬ心の底にぼつ〳〵た野心を抱いて俗氣滿々たる長谷川町附近の大熱鬧地に向うた。

此時予はふと思出したのは嘗て友から聞いて居た**某女子大學**の門をくぐつたことのあると云ふ今年十**九**になる**娘が月極**めの**妾**をして居る、其の家が何んでも此邊と聞いて居た、彼方へ迷ひ此方へ迷ひ終に探し當てた**細君**と云ふ。

今日の運勢

●二月廿二日舊正月廿四日六白 癸亥 赤口 納 三りん 八專終り△●白 ●一白 續行ノ事受身の事遂行吉新事忌む旅行轉住婚談進んで吉△二黑 婚談養子合同連盟の事が吉色情及閨門の亂れを戒しむ△三碧 新事旅行見合せい事金品授受及不動產の事故障起らんとす負傷遺失防ぐべし△四綠 不如意の事多し金談旅行婚談起業開店凶負傷盜難戒しむべし△五黃 破綻し易き日新事及談合中裁合同結社訂約効無し酒色賭事を戒しむ△六白 新事旅行婚談金品貸借効無し組合委託連帶裏書保證の行爲を愼む△七赤 擾亂し易き日中傷葛藤不和紛爭釀し易し新事旅行見合せの事△八白 交際取引計算上不平不服生じ易し新事旅行見合せの事△九紫 部下家族のため煩累多き日又微密計畫を破らるゝ事あり新事旅行婚談貸借委囑効無し(本町五丁目三一館判斷)

▲京龍兩驛の貨客▼

▲南大門驛乘降客 二十日の分 乘車客 四九八 下車客 六九三 乘車賃金 八七七、九九

▲南大門驛荷扱高 ▲二十日の分

▲龍山驛乘降客 二十日の分 乘車客 一五三 下車客 一七七 乘車賃金 一六六、七七

▲龍山驛荷扱高 二十日の分 發送 五噸 到着 五三噸

▲仁川港の出入船舶

▲隅田川丸 廿二日 長崎より入港
▲信濃川丸 同 大阪より入港
▲大有丸 同 大阪へ向出港
▲隅田川丸 同 大連へ向出港

[illegible]二十錢▲最高[illegible]▲最低十五錢▲止十五錢▲四月寄十七錢▲最高二十錢▲最低八錢▲止九錢 ●廿一日前場[illegible]出來不申▲三月寄十一圓五[illegible]最高圓上▲最低十圓九十八錢